



【 東京教区報恩講 団体参拝 】

原爆の岡丸木美術館へ出かけた。都幾川の辺に建てられた佇まいに原爆の図十四枚を始め、沖縄・水俣、遠く南京、アウシュビツツを題材にした絵画は、どの描写も違わず強烈なインパクトをもって自分の中に入り込み、これまでの人生経験によって培ってきた自己の想像力を粉碎する迫力にただ呆然として立ち止まり歩み出せなかつた。テークマに共通するのは、いつの時代も人間社会の底辺に、為政者や強者の身勝手な欲望と詭弁、暴力、権力が浸潤して、弱者と呼ばれる名もなきかよわい民衆を犠牲にしていること。このことは自然発生的な災害等でなく間違いなく人為的な歴史の産物である。平和と幸福を求めているはずの人間の営みがこのような惨状、地獄を生み出しているのがよく理解できる。その矛盾と不条理が独特な洞察力と緻密な表現力によって描き出されている。「原爆についてはどうだけひどく描いても描きつくせないと思う」（丸木位里）そして他者

本願力

〒234-0051

横浜市港南区日野一ー十一八

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
FAXTEL
(〇四五)八四一ー三四三四
(http://www.yokohama-oootani.com)

雜感三
輪番 坂田 智亮

の痛みに近づき、我がこととして捉えると云う基本的姿勢を窺い知ることができる。なぜこのような歴史的現実が惹起するのであろうか。いや、今も現に同じ時間が過ぎているのかもしれない。この絵画の表現にどれだけ自己自身を内薄できるのかが問われている。どんな時代に生れようとも、差別と殺戮は止むことがなく、常に人は三悪道に墮して、のがれがたき身であることを、正確に認知することができるように気がしてきたのは不思議なことであった。

ひとそれぞれの 涙のしづくに洗われて
咲き出づるなり

（石牟礼道子）

お念佛は平常心だと、また、お念佛は常識だと教えてくださった先達の言葉に想いを馳せるとき、人間とは「他者の痛みを知つてこそ」そんな共感の場を共に生きているのだという感覺が不可欠のようになることは理解できず軽然としない。ささやかな運命を共に生きている者として、人間として持つているべき心「共感の場」を回復して、そこに帰していくのが本願念佛の道でありましょう

神奈川教化センターはやがて発足三年を迎える。「別院に願われていることを形にする歩み」は、どこまで進んだのであろうか。時代社会に問われてくる課題に応えるべく試行錯誤の連続である。「元気の出る寺づくり講座」「グリーフケア」「公開講演会」さあ、これから展開はいかに・・・振り返つてみても道が茫茫としている。「これからがこれまでを決める」この言葉は実に重たくのしかかっている。

劫濁のときうつるには
五濁悪邪まさるゆえ

有情ようやく身少なり
毒蛇悪龍のごとくなり
(正像末和讃)

修正会 厳修（一月一日）

今年より当別院の修正会が勤まりました。修正会とは、一年の初めに莊嚴を整え、仏恩報謝の思いをもつて新しい年にのぞむ仏事です。勤行と年頭の挨拶の後、研修室でお斎をいたしました。食事は門徒皆さんのが黒豆などの手作りのおせち料理を持ち寄っていただきました。お屠蘇をいただき新年を彩る雰囲気に包まれました。



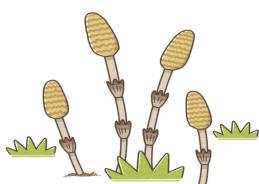
教区報恩講団体（一月二十八日）

毎年、別院同朋の会を中心に東京教区報恩講に団体参拝しています。今年は十名の方に参加いただきました。今年度テーマは「今、いのちがあなたを生きている・凡夫の身に立ち返る」でした。午前は、中根信雄氏の法話、TOKYOサンガ9による仏教讃歌の合唱があり、その後お斎をいたしました。午後は、結願日中法要が勤まり、大きな声で正信偈真四句目下、念佛讃歌がありました。その後、感謝があり、ユ・ヨンジヤさんの法話がありました。沖縄を手がかりとして真宗の教えを聞いていく場となりました。

→ 講義の様子 本堂での作法の様子 →



【加納靖夫責任役員】



合掌

二〇一八年度第四回
別院声明儀式研修会（一月二十一日）

今年度四回目となる声明儀式研修会が開催されました。講師は鈴木友好師（本山・堂衆）で、講題は昨年に続き「報恩講の儀式全般について」でした。午前は報恩講についての講義。配布資料に基づき、法要次第、莊嚴、華束、御仏供、選び御文等のお話を詳しく頂きました。

午後からは、本堂において、実践形式の出退作法等の確認を行ないました。

（文責家本）

加納靖夫責任役員 ご逝去

この度、当別院責任役員 加納靖夫氏は、病気療養中のところ、去る一月二十七日ご命終（七十七才）されました。

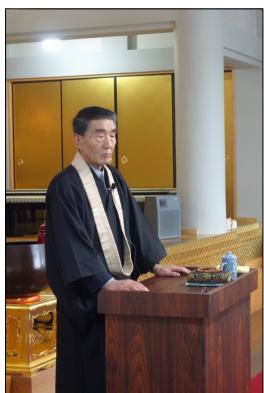
加納氏は二〇〇五年五月より別院監事二〇一一年より現在まで責任役員の重責を担つてくださいました。その間、二〇一五年四月の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要、記念事業、神奈川教化セントター開所など多くの事業にご尽力いただき、また、親鸞聖人の銅像を寄進されました。別院同朋会では、先頭に立つて積極的に聞法、奉仕活動等に励んでござりました。

二月十七日「責任役員加納靖夫を偲ぶ会」が別院本堂にて開催され、遺族を始め有縁の方々四十名程が集い、それぞれ加納氏との出遇いに想いを馳せて、厳かに正信偈のお勤めをしました。輪番の挨拶・追弔の言葉、清水妙子さんの弔辞があり、引き続き加納氏のお兄様からお言葉を頂き、参加者一同生前の遺徳を偲び、最後の大切なお別れをしました。

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

三浦組 二〇一九年度寺子屋

講師 片山寛隆師（三重教区相願寺住職）



（文責家本）

→ 片山寛隆 先生

三浦組では毎年「寺子屋」という門徒研修会を開催しています。二月五日、今年度第一回目が横須賀市の最光寺で開催されました。参加者は本堂いっぱいの五十名を越えていました。

講師は、片山寛隆師で、テーマは「念仏のある生活」教えに出遇う」でした。片山先生は、まずご本尊のお話を始められました。「仏さまのことを知つてゐるつもりでいることを、仏さまから問われているのである。」と教えていたときました。仏さまとは「苦悩する群萌を救う」のであり、草木が萌えるよう人に聞いっていることも教えていただきました。

また、「仏さんの仕事に土日はない」と休みなくはたらいておられる阿弥陀仏の姿を言い表してくださいました。最後に、「宗教とは自分の夢を叶えてくれるものではない。夢は夢である。夢から覚めよ」と呼びかけました。夢は夢である。夢から覚めていただきました。

次回の第2回、第3回と寺子屋は続きます。

（文責家本）



→ 一樂真 先生

【神奈川四ヶ組行事予定表】

〔横浜組〕 〔横浜組門徒研修会〕

横浜組門徒研修会（二月十五日）

講師 一樂 真 師（大谷大学教授）

【日時】四月十一日（木）午後一時半
【講師】武田定光 師（東京六組因遠寺住職）
【会場】本願寺横浜別院

〔横浜組声明儀式研修会〕

【日時】五月二十日（月）午後一時半
【講師】管生考純 師（京都教区光明寺住職）
【会場】本願寺横浜別院

〔三浦組〕 〔二〇一九年寺子屋〕

〔第二回〕
【日時】三月一日（金）午後一時

【講師】伊東恵深 師
(三重教区西弘寺住職)

【会場】西來寺（横須賀市不人斗町三三八）

（名古屋教区恵林寺住職）

〔第三回〕
【日時】四月九日（火）午後一時
【講師】荒山信 師
(三重教区圓照寺住職)

【会場】圓照寺（三浦市三崎四一九）

三浦組では毎年「寺子屋」という門徒研修会を開催しています。二月五日、今年度第一回目が横須賀市の最光寺で開催されました。参加者は本堂いっぱいの五十名を越えていました。

講師は、片山寛隆師で、テーマは「念仏のある生活」教えに出遇う」でした。片山先生は、まずご本尊のお話を始められました。「仏さまは苦しみから救いであり、解脱である」と始めにお話されました。「仏教の

教えが先にあるように思うが、実は仏教は人間の苦しみから始まっているのである。様々な周りとの関係で苦しみが生まれ、つながりの中で苦しんでいるのが我々である。科学技術や医療が進歩しても、この苦しみの問題は消えない」とおっしゃられました。一樂先生は、安田理深先生の言葉を引用され、「仏教は水を飲むようなもの」とお話をされました。例えば、喉が渇いていな

いと、水を飲まない。逆に喉がカラカラだと水を飲んで、「生き返った」と思うはずである。それに、コップに入った水を手に持つて眺めて、あれこれと考察する人もいる。的を射た例えで、頷かされました。やはり、水を飲むことから始まるわけで、真宗の教えは念佛申すことから始まるわけである。

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2019年3月～4月 ～どなたもご自由にお参りください～

春季彼岸会法要 午後1時30分より

3月20日(水)・21日(木・祝)

【法話】近藤 龍磨 師
(岐阜教区第11組廣專寺住職)

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、自分の生活を振り返る大切な時です。
有縁の皆様におかれましては、ぜひご参詣ください。



定例法話 午後1時30分より

3月9日(土)横浜組 智廣寺 橋本 正博 師
3月28日(木)別院 輪 番 坂田 智亮 師
4月9日(火)湘南組 長徳寺 内藤 祥世 師
4月28日(日)別院 輪 番 坂田 智亮 師

横浜別院同朋の会

4月18日(木) 午後1時30分より
参加者の皆様とテーマを決めて、座談を中心
に行います。お気軽にご参加下さい。

※3月18日の同朋の会は休みです。

紙面でお伝えしました
とおり、加納靖夫さんが
亡くなられました。私が
別院に着任しました二〇
〇五年に加納さんのお母
様が亡くなられ、それを
ご縁として大変親しくお
付き合いさせていただき
ました。悲しい思いは理
屈抜きに悲しいのですね。
さて、春の訪れがまも
なくやつてきます。なん
となくですが、例年より
は寒さがきびしくなかつ
たようになります。

公開講演会

・小さき声のかん上上映&監督トーク
鎌仲ひとみ監督來たる！

3月10日(日)
午後1時30分～5時(受付1時より)

【上映】『小さき声のカノン-選択する人々』
＜内容＞福島原発事故から7年、日本でも被ばくを軽減する新しいステージが始まった。放射能についての危機感がしだいに薄れ、事故の風化がさきやかれる今だからこそ、誰もが観るべきドキュメンタリー映画。

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター
【参加費】大人1,000円、高校生以下500円

上映後、鎌仲ひとみ監督のトークを行います

※当日受付となります。直接会場へ。

ウクライナの歌姫

ナターシャ・グジーコンサート [水晶の歌声とバンドゥーラの可憐な響き]

4月14日(日)
午後5時～6時(受付4時30分より)

【メッセージ】私の人生にはいつも音楽がありました。つらいとき、悲しいときも音楽が私を元気づけてくれました。そこに希望と、明日へ向かう勇気が生まれ、私は一日一日と人生を重ねてきました。そしていつも、聴く人のこころに響く歌と演奏をお届けてできたらと願っています。

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター

【参加費】大人1500円 小学生以下無料

※当日受付となります。直接会場へGO!